

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202978		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート矢切 (2階)		
所在地	千葉県松戸市下矢切99-10		
自己評価作成日	平成28年1月22日	評価結果市町村受理日	平成28年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成28年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地の中に位置し、駐車場にある花壇でガーデニングを行い、季節の花を植えることにより入居者に季節感を味わっていただいている。近所のスーパーやお花屋にも入居者と共に行き買物や交流をしていただいております。地域住民との交流も積極的に行っている。また、地域で行われるお祭りや会食会にも積極的に参加すると共に内部の季節の行事も開催し、楽しみのある生活が送れるようにしている。家庭的な環境の中でお客様ということをお忘れず、その中で家族の一員として、自宅でこれまで当たり前のようにしてきたことがガーデンコートでもできるような環境づくりをしている。地域で行われるお祭りや会食会にも積極的に参加すると共に内部の季節の行事も開催し、楽しみのある生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の方が毎日楽しく、笑顔多く過ごして頂く為にどのようなケアが必要かという事をテーマに掲げ、利用者が楽しめる事を現場スタッフが中心に考え、実行できる組織を目指し、日々丸となり取り組んでいる。地域の公園の清掃活動への参加や、お祭り、ふれあい会食会など、地域行事に積極的に参加をしているほか、日常的にも利用者の要望に応じてカラオケに出かける等、外出頻度を高め生活の活性化につなげている。また、今年度より「サンクスカード」を導入し、職員の良い部分をカードを通して褒めていく取り組みも行っている。職員のモチベーションが高まる取り組みを通じて、働きやすい職場環境につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに会議を開催し、社是、経営理念、心得を全スタッフに説明し、周知徹底している。	会社の社是、経営理念、心得を事務所内に掲示しているほか、毎月の拠点会議において読み合わせを行うようにしている。また、社是の意味についても職員に伝え理解が深まるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや盆踊りに参加したり、近所のスーパー等買い物に行き、極力地域資源を活用し生活していただいている。	地域のお祭りや盆踊りへの参加のほか、毎月開催される地域のふれあい会食会に利用者も参加をし交流を深めている。中学生の職場体験の受け入れも行う等、地域交流充実に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に民生委員や地域の代表の方に参加していただき生活の状況を説明し理解をいただいている、		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームの運営状況や行事報告、地域活動の参加内容などを報告させていただいている。参加者の方々からもご意見を頂き、サービスの向上を図っている	会議には、地域包括支援センター、介護相談員、民生委員、薬剤師、他のグループホーム職員の参加を受け2ヶ月に一度定期的に実施している。会議では運営状況の報告のほか、参加者との意見交換を通じサービス向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議には関係機関の参加も受けながら意見交換を行っているが、今後は地域住民代表の方の参加も得られると良いであろう。今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、地区在宅介護支援センター職員に運営推進会議に参加していただいている。また、市の担当者とも必要に応じて連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営上の疑問点や行政の判断を仰ぐ必要がある際には連絡をし、指示を仰ぐ体制としている。市の担当者とは連携が取れており、協力関係が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外研修に参加し、その内容を社内でも伝達研修を行い、スタッフに理解して頂き、身体九速のないケアを徹底している。	事業所内で「身体拘束廃止及び虐待防止」研修を実施し、職員の意識を高めている。現状身体拘束につながる事例は無く、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で年1回は行い、虐待のないケアについて検討し、周知徹底している。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが必要に応じて関係者に助言をいただきながら対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説書を説明する際に質問をお聞きする時間を設け理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを年1回行い、意見をいただき運営に反映させている	家族からの意見や要望は面会時や電話において個別で確認している。また、「お客様アンケート」を会社全体で実施しており、運営に関する意見等を収集している。利用者からは日常会話からの収集のほか、毎月、介護保険相談員の方が来所している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、拠点会議を開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。	現在管理者との個人面談を進めており、職員からの意見や要望を個別に確認している。また、業務や支援の見直しにあたっては、拠点会議やユニット会議の中で意見を収集している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、職員個々の評価を行っている。また、話し合いの場を設け職場の環境等スタッフの意見を聞きながら整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で入社年数別の研修やケアマネ研修を開催したり、1年間の社内研修の計画を立て社内研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会、小規模連絡会、運営推進会議への出席を行なっている。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様にも見学に来ていただき、ホームの雰囲気を感じていただき、時間をかけてコミュニケーションを図りながら安心を確保した関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用する前にご家族様とお話しする時間を多くとり、要望や困っていることをいお聞きし関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様の要望や不安なことをお聞きし、適切なサービスが受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様が一緒に身の回りのことや日常生活の活動を行なうようにしており、介護する側、される側の関係ではなく、家族のような関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化がある場合はもちろん、普段の様子も随時報告し、必要に応じて面会して頂き、連携を図りながら本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご家族様との外出や面会を自由に行っていただき関係を築ける環境にしている	馴染みの人や場所との関係が途切れない様に、友人の来訪や友人へ手紙を出す等の要望には柔軟に対応している。馴染みの場所についても具体的な事例はないが、出かけたなどの要望があれば柔軟に対応していくこととしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がお客様と関わりを持ちその中でお客様の関係を把握し、仲の良いお客様が関われる環境を作っている。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所する際、相談に乗ることを伝え退所後も連絡させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望をお聞きし、ケアプランに反映している。困難な場合はこれまでの生活歴やご本人の趣味をご家族様よりお聞きし、意向を把握するよう努めている	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時にご本人やご家族からお聞きし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の会話や初回面接時にご家族様への聞き取りを行い、はあくするよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人との会話やご家族様との話し合いを行い、要望やアイデアを取り入れた介護計画を作成できるよう努めている	アセスメントにおいて利用者の現状及び課題を抽出し、アセスメントで得た情報を基に担当者会議において利用者、職員から意見を収集し、総合的な意見を踏まえてケアプランを立案している。ケアプランの状況は毎月モニタリングを行い、目標の達成度を確認している。	ケアプラン立案の際には担当者会議を開き、家族や職員の意見を踏まえて作成しているが、今後は主治医の意見なども必要に応じて収集し、多職種連携でケアプランが作成されることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録へ介護計画の要望を取り入れ、その内容について実践、結果の記録を残し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族より要望や状況が変化した場合、相談をしながらサービスを決め、柔軟に取り組んでいる		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員に働きかけ活用できる地域資源の把握に努めている。また、近くの公園へ散歩に出かけたり、会食会に参加し地域資源を利用し、楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望をお聞きしている。連携医療機関を希望された場合は、週に1度の往診と夜間、急変時にも対応していただき、ご家族へその都度連絡をしている。	提携先の医療機関による往診が月に2回あり、定期的に主治医の診断を受ける事ができている。担当医とは24時間連絡が取れる体制であり、緊急時にも迅速に対応が図れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の連携は図っておらず、提携医療機関の医師と連携を図り、随時相談や指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、まめに訪問し、情報交換に努めている。また、普段から病院へ訪問し、関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	連携医療機関と連携を図る中で主治医が終末期と判断した場合はご家族様、主治医と相談しながら今後の対応について相談し、方針を決めている	重度化や終末期の方針に関しては、契約時において方針を説明し、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。重度化が見られる場合は、家族や主治医と再度話し合いを行い、今後の方針を検討していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、対応できるようにスタッフに伝えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、全スタッフが対応できるようにしている。近隣住民との協力体制については今後の課題である。	火災発生時のフローチャートの確認や通報手順について等、事業所内で自主訓練を実施しているほか年度中に消防署立会いで総合訓練を予定している。災害時における近隣との協力体制については今後の課題となっている。	今後に向けては地域の協力体制の確保のほか、災害時に備え備蓄品の確保や災害発生後、家族に対して利用者の安否をどのように伝えていくか連絡方法についてより明確になる事が望まれる。

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部の接遇マナー研修に参加し、参加者が伝達研修を実施することにより職員一人一人が意識して言葉かけが行われている	利用者一人ひとりを「お客様」という立場で接し、職員一人ひとりが意識を高め、適切な対応が図れるよう日々取り組んでいる。居室への入室の際にも、ノックをする、一声かける事を基本としプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを密に図り、その中で希望を聞きだせるような声かけを行うよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが買い物や散歩等希望があるときには出かけたり食事の時間など柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様に衣類を選んでいただき好きな洋服を着ていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲でお手伝いをさせていただいている	出来る方には調理準備や盛り付けなどを手伝って頂き職員と一緒に準備や後片付けを進めている。食事を楽しむ工夫では、近隣のファミリーレストランへの外食や毎月地域で開催されるふれあい会食会に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録に残し、少ない方には定時以外でも水分補給を促している。食事メニューも外部の業者が作成しておりバランスの取れた食事が出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後航空ケアを行うとともに週1回、歯科往診をし、状態を見ていただき必要に応じて治療や口腔ケアの指導をさせていただいている。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、必要な方にはトイレ誘導を行い、極カトイレでの排泄を支援している。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌に水分摂取量や排泄に関する記録を残し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や散歩等身体を動かす機会を作るとともに食品も工夫し、便秘にならないよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決め入浴しているが希望者がいる場合には、入っていただくなど柔軟に対応している	利用者の体調やタイミングを考慮し、週2回入浴できるように支援している。入浴中は職員が介助につき、転倒等が生じないように安全面には十分に配慮している。また、菖蒲湯やゆず湯など季節風呂を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのこれまでの生活習慣に配慮し、温度や明るさなど調整し、安心して眠れるよう支援している。また、1時間に1回の巡視を行い、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をいつでも確認できるようファイルにしてある。また、服薬時は名前を読み上げ、スタッフ、本人に確認していただくから服薬して頂き、誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の会食会やホームの行事(外食会等)に参加して頂き、楽しみごとを作っている。また、趣味活動や日常生活の中での役割を持って頂き職員と共に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候に配慮しつつ、散歩に出かけたり地域の会食会やお祭りへの参加、ホームでの行事でお花見や梅を見に行ったりし、外出する機会を作っている。	天候のよい日には、安全を配慮しながらお一人ずつホーム周辺の散歩にお連れする等、戸外に出かけられるよう支援している。また、お花見や地域のお祭り、ふれあい会食会への参加を通じて外出できるよう支援している。	

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをご家族からお預かりし、本人の要望がある時、及び必要に応じてご家族同意のもと買い物している。また、ご家族ご了解のもと出来る方に関しては金銭管理を行なっていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、事務所にて自由に使用して頂いている。手紙に関しては、届いた手紙をご本人に渡し、要望があれば散歩等の際にスタッフと一緒に出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度は、過ごしやすい温度に設定し、居心地良い環境を整えている。また、花や行事の写真を掲示し、季節感が感じられる環境にしている。	共用の空間は、ご利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者で席を一緒にし、会話を楽しめるよう工夫している。また、ソファを設置し自由に使用していただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは、馴染みのあるタンヌや日常使用する茶碗、箸等持参していただき使い慣れたものを使用していただき居心地よく過ごせるよう支援している	居室は、ご利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、ご利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの出来ることを把握し、ご本人の出来ることに関しては声かけをし、スタッフ見守りのもと、安全に配慮しながら行なっていただいている。		